

発行所 日本キリスト教団 なか伝道所
〒231-0026 横浜市中区寿町 3-10-13 金岡ビル 205
Tel. (045) 671-1109
振替 00200 - 1 - 47369
E-Mail : naka-ch@hb.tp1.jp HP : http://church.jp/naka/
発行者 なか伝道所／編集委員会 (題字 松橋 順)

宣教方針

- ① 貧しい人々への福音に共にあずかる。
- ② 地域の問題に関わる。
- ③ 諸教会に呼びかけてゆく。

集会 主日礼拝 日曜日(第1・第3・第5)
午前10時30分より(但し11月は第1・第4)

これからのなか伝を考える④

私が、信仰で大切にしているもの



奈良光男さん (ギターを抱えて)



宮タズさん (ご自宅の庭で)

今回は「私が、信仰で大切にしているもの」として、二名の方に原稿を書いていただいた。奈良さんと宮さん。バックボーンは異なり、教会へのつながりかたも違うが、お二人とも真剣に、なか伝でイエスと出会い、その喜びを周りの人たちと分かち合ってきた。その生き様を感じてほしい。

祈りを大切に

宮タズ

私が信仰で大切にしていることは、祈りを捧げることです。食事を頂く時、夜寝る前に祈ります。困った時、心配事がある時も神様に助けをもとめます。

『主はわたしの牧者であつて

わたしには乏しいことがない。

主はわたしを緑の牧場に伏させ、

憩いのみぎわに伴われる。

主はわたしの魂をいきかえらせ、

み名のためにわたしを正しい道に

導かれる。

たといわたしは死の陰の谷を歩む

とも、

わざわざを恐れませぬ。

あなたがわたしと共におられるか

らです』

詩編二三編、これを暗誦して心を静めます。

寝る前のお祈りは感謝と至らなかつたことをおわびします。神様と向き合つて親しくお話しできます。食前には多くの人々にお世話になっていることを感謝します。私は神様の

愛に包まれてここにいます。

そよ風が庭の木々を揺らしていると、神様が愛しているよと、ささやいてくださると感じます。そうして周りの人に愛を分けなさい、やさしく笑顔で人に接しなさい、近くの人だけでなくもつと遠くの人にも愛を伝えなさいと言われます。私は今まで何度も神様に助けて頂きました。

今コロナで苦しんでいる人々たちを癒してください。争いの中を逃げまわり苦しんでいる人々たちが沢山いると報道されています。世界の隅々まで神様の愛で満たしてください。その人々たちにも祈ることを教えてください。世界の中のクリスチャンの祈りに合わせて、争いのない平和な世の中になるようにお願いします。

お願いばかりで私にできることは何でしょうか。イエス様が私に力をくださることを人に伝えます。いつも笑顔で挨拶します。小さな花壇だけれど草花を育てることが好きなので周りの人に眺めてもらい、神様にしか作ることのできない花の色や形を感じてもらいます。今は千日紅や赤白ピンクのおいらん草、紫と白のトレニアを育てています。他にできることは読み終わった本をアムネス

テイなどに送ることです。

最近、自分を大切にすることも大事だと気づきました。健康で日々を過ごすことが自分のためだけでなく社会のためでもあるからです。私が自慢できることは九三歳で自分の歯が二十本以上あることです。なるべく皆様にお世話をかけないよう、特にコロナに気をつけ、今日も祈ります。

私の信仰

奈良光男

○なか伝との出会い

十年前のなか伝との出会いを思い起こしてみると、非キリスト教だった自分がイエスと出会ってびっくりした。キリスト教とはただ祈りだけで、言葉の世界だけだと思っていた。だが、信徒の人たちは社会運動をしている。そしていろいろな小委員会があつて、そこで活動していることを知った。

○教会での役割

たまたま川崎でフォークソングをやったことがあつて、へたくそであつたが、牧師からさんび歌のギター伴奏を頼まれて、引き受けた。現実的になかなかかむずかしくて、

教会風の伴奏の演奏イメージが頭に残っている。クラシックは好きであつたことを否定していなかった。みんなリズムが合っていないなくても、歌ってくれていた。しかし、その中で、自分なりの演奏を見つけた。

○無牧の中で

想像はしていたが、まさか、その現実がやってきた。使信は、讃美歌は、愛さん式はどのようにするのか、特に愛さん式に関してはいろいろな意見があり、そんな中で私にもじもじしなかった。現実的な状況を見つめるようになった。

讃美歌について、みんなの使信にあつた思いにあつた伴奏を、自分のサウンドに表現している。

○今後の自分の役割について

コロナとの関係で、現在運営委員を頼まれ、引き受け学習することが好きだから学習会係を引き受けた。讃美歌の伴奏は、今まで以上に演奏していきたい。

○仕事

現在の仕事の中で、利用者さんの指導員としての役割については、なかなかうまくゆかず、また、「障害者手帳」を持っている人たちとのかわりを大切に、注意したり、自

分が指摘されたりして、すぐできることはなおして、謙虚に立ち会っていきたくと思う。運転者と指導員の両立で、前向きに、仕事に対して向かつている。

○最近、特に感じていること

寿の町だけではなく、他の町でも、障がい者が社会で生きていく上での援助、助け合い、共に生きてゆく、お互い未来に向かって生きてゆくには、今の社会に対して立ち向かつていかなければ、前へと進めないのではないだろうか。

自分のプロセスであるプロテストソングも同様ではないのだろうか。

○プロテストソング

小さい頃から家庭が貧しく、確か小学三年生の頃、家は生活保護を受けていると知り、政治に対して批判をすることがいっぱいあつた。一八才でプロテストソングを知り、生きていく中で社会に対してのアピールをするようになった。イエスが当時、権力との闘争をしていたことに感銘をうけています。



風景

現在、妻と子供は感染を恐れて妻実家の伊東に長く居候しており、九月より転職先の会社で出勤が必要となった私は、ひと月ほど横浜の自宅で一人暮らしをしている。しかし他者に無関心な現代の大都市横浜において、コロナ禍の昨年引越してきた私には殆ど知り合いがいな

い。今年より通い始めたなか伝もお休みとなり、休日など終日誰とも面と向かつては話さない。一人でいると気が狂いそうな気もして、ボランティア活動なるものに参加してみた。野宿の方々への声かけパトロールである。(このご時世、このような動機での参加は褒められたものではないだろう) 参加して最もよかったのは、私が通勤時に通る道にいた野宿の方二人と親しくなれたことである。私にとつて近所のできた初めての友人である。それ以来、出勤・帰宅時、会えれば必ず挨拶し、軽く雑談をする。職業、財産、身なり等関係なく、そこにいてくれるだけで私にとつて有難い存在である。

(松田祐作)

本田哲郎

「聖書を発見する」終章

マルコによる福音書一第二章二九〜三一節

小笠原敦輔

第一はこれである。「聞け、イスラエルよ。わたしたちの神、主は、唯一の主である。心のそこから、自分のすべてをかけ、判断力を駆使して、力のかぎり、あなたの神、主を大切にせよ」。

第二はこれである。「あなたの隣人を、自分自身のように大切にせよ」。この二つにまさる掟は、ほかにない。

(マルコによる福音書

一 二章二九〜三一節)

◆隣人を自分のように

本田さんの本も終章になりました。そこで語られているのは、聖書

の中の神の掟、教えは無数にありますが、律法全体は「隣人を自分のように大切にしないさい」で十分ということです。

表題の聖書の箇所を見ても、二つとも大事だということは、よく分かります。以下、本文からの引用を含め、心に響いた内容を紹介します。

〈しかし、いざ実践しようとするとはたと困るのです。見えない神を大切にすることは、朝から晩まで祈るといふことでもなさそうです。二つを並べられると、必ずどちらかがおろそ

えーとねえ

釣りに連れていくと、近くの釣り人に話しかけ続けて、

必ず魚をもらってくる長男との会話

父 「かます、またもらっちゃったなあ」

長男 「パパが釣れないから、僕がもらわないといけないんだよ」

まっただみほる (三才)

かになつてしまふ：のが人間でしよ

う。パウロは、さすがに実践的な福音の理解者であり、宣教師でした。やることは一つだけ。「隣人を自分のように大切にしないさい」。これを実行するとき、神を愛すること、神を大切にすることが実行されているのだ、と。

そして、レビ記一九章を引き、「隣人」として総括される人たちは、生活に困窮する貧しい者、寄留者(難民)、日雇い労働者、障害者など、「社会的に弱い立場にある、小さくされた仲間たちです」と述べています。

私たちの伝道所でも、それぞれのメンバーが隣人を求めて、ある人は寿に、ある人は自分自身の活動に、ある人は平和活動へ出かけていきました。ただ、そこで、困難にぶち当たった時、孤独を感じたこともあったと思えます。そのような時、お互いに柔軟に応援に駆けつけることができるとしたらどんなに勇気をもらえたことでしょうか。私たちはこのような自立して成熟した関係を望んでいます。

◆「愛する」ことよりも

「大切にすること」を

新約聖書の「アガペー」は「愛」と訳されてきたことですが、本田さんはそれをあえて「大切にすること

と言い換えています。

へわたしたちの愛の体験的イメージは、家族の中で得たもの、あるいは自分の連れ合いとの出会いで経験したものにほかなりません。それは、あくまでも限定的であり、個別的な関係性です。それをだれかれの別なく、あの人にもこの人にも、向けることは不可能なことであり、また、してはならないことなのです。

本田さんは、寒い夜中、釜ヶ崎の生活道路に何十人もの人たちが寝ている光景に出会いました。彼らを前に、「隣人を自分と同じように愛しなさい」を受けて自分の家族のように家に招きたくても、二畳一間のアパートでは無理です。

「不特定多数の人を愛することは不可能」であり、「アガペー」は「自分が自分として大切にしてもらいたいように、相手の人をその人として大切にしないさいということ」だと言います。

本田さんは、釜ヶ崎の人たちが望んでいることは、何より「気をつかわずに泊まれるドヤ」の手配とか、「きちんとした制度によるシェルター」など、同じような境遇の仲間たちが普通に利用できる場所を確保してもらおう、ことだと言います。これこそ、そこにいる仲間を「アガペー」大切にすることではないでしょうか。

一方、フアリサイ派の人、律法学者たちと対決したイエスは虐げられた貧しい仲間たちを「罪人」と見なし、重荷を負わせる彼らに憤り「とことん対決」します。対決して、「かれら自身に自分の誤りを気づかせたかったです。これは決して愛ではありません。これこそ大切にする（アガペー）」ということなのです。

ここで、もう一度、よきサマリヤ人のたとえを見てみたいと思えます。追いはぎにやられたからといって、いわゆる愛するのではなく、そ

の人のことを思い、最もよかれと思う方法、大切にしようというところを行いました。この場合は、「はらわたを突き動かされ、近寄って、傷口にぶどう酒とオリーブ油を注いで包帯をし、自分のろばにのせて宿屋につれていって介抱しました」と聖書は続きます。

私たちも、人を大切にすること。もちろん、身近にいる人びと、伝道所の仲間もそうですが、小さくされた人たち、弱い立場の人たち、私たちの想像の範囲を超える人たちに對しても、神様は、九九匹の羊より一

まど

無牧の「なか伝」に牧師を招聘する可能性について、これまで検討を続けてきましたが、皆さんの思いをなかなか聞くことが出来なかつた上、コロナ禍で相談会も開けなくなりました。そこで、出来るだけ多くのメンバーの率直な意見を聞き、今後の「なか伝」を共に考えるために、「牧師招聘についての無記名アンケート」を実施することにしました。その結果回答数が少なく「なか伝」を代表する声や総意ではありませんが、その中で、聖書を分かり易く説いてくれる人としての牧師が欲しいという意見が多くあり

ました。しかし、「本来イエスの言葉は教会に集う仲間が発するべきだ」、「無牧になった理由を鑑み、もう暫く今の状態を続けたい」等の招聘に反対の意見もありました。

教会に對する希望としては、寿に位置する教会として貧しい人々に寄り添い、信仰を心の問題のみとせず、社会問題に取り組み、皆で作り上げていく教会にしたいという意見が比較的多く見られました。牧師についても、なか伝道所宣教方針を理解し、信徒に寄り添って共に活動してくれる人を望むという声がありました。

(伊東弥生)

匹の羊を大切にされたように、私たちは率先して大切にしなければならぬと思うのです。それが具体的にできているのかが問われていると思ふのです。

最後に本田さんは永続するものとして「信頼してあゆみを起こす」と、「たしかさに心を向ける」と、そして、一番偉大なものは「人を大切にすること」と言って締めくくっています。私たちは本当の意味で人を大切にしているのか。大阪のドヤで活躍している神父からの、真つ芯から受け止めなければいけないメッセージだと思ひます。

【お詫びと訂正】

「なか」だより一九七号に、表記違いがありました。

○要訂正箇所

- ・一頁一段目リード文、一四行目… 本田哲郎著 ↓ 本田哲郎著
 - ・三頁タイトル中、著者名… 本多哲郎 ↓ 本田哲郎
 - ・三頁二段目、本文二行目… 釜ヶ崎 ↓ 釜ヶ崎
- お詫びと共に、訂正いたします。

編集後記

ウィズコロナにもかわからず、原稿依頼した方々から期日までに原稿をいただいた。バラエティーに富んだ紙面を楽しんでいただきたい。(敦輔)